



熊谷さん (山形県山形市)
 穂を長くして、いかに籾を充実させるか。日頃の観察と肥料設計が重要。「今年のみはんまいよ」と理想に近づきつつある熊谷さん。

秋から冬へ

稲刈りを終えて田園風景が一変した。遠くで田焼きの煙があがっていると藁の香りが通り抜ける。山々も赤く染まっている。前線が通過するたびに一步一步冬が近づいてきている。間もなく立冬を迎える。



奥山さん (山形県天童市)
 間もなくお届けのラフランス。収穫後に予冷庫でじっくりと熟成させている。ご自宅で最後の追熟をさせれば、あの一年に一度の幸せが。



高橋さん (山形県村山市)
 この秋から提携した高橋さん。栽培面積6町歩、年間70品目を作る篤農家。「野菜をうまくするには肥料を抑える、おのずと農薬も減る。」

「TPPでどうなるの？食の安全」

安田節子 (食政策センター・ビジョン21)

TPPに食品安全の制度を変更する規定はないと政府はいう。しかし、TPP協議参加と同時に義務付けられた「日米並行協議」で、食品の安全基準について米国の基準を受け入れる検疫衛生措置ルールの履行が約束された。有害という科学的証明がされない限り、輸入をしなければならぬ。具体的に見てみよう。

食品添加物―米国の約3000品目、日本は約860品目を指定認可している。米国の基準を受け入れて、この差を埋めて行くことになる。すでに米国の要求に従い、食品には使用禁止だった抗生物質や魚介類の着色料などをまとめて認可した。今後も増大し続ける。

ポストハーベスト (PH) 農薬―PH農薬は食品への残留量が多くなるため日本は禁止だが、農産物輸出の米国のOKだ。米国の要求する米国の残留農薬基準の受け入れはPH残留を認めることになる。米国の基準は、例えば、アメリカカンチエリーの殺菌剤では日本の20倍、米の殺虫剤では日本の60倍とか80倍が設定されている。

遺伝子組み換え食品 (GM)―日本は米国の輸出するGM作物最大の輸入国だ。現在300を超えるGM種が認められ、今後も増加し続ける。GM表示、特に「GM不使用」という任意表示が危ない。輸入品が不利になるからだ。TPPには危険なISD条項が入り、企業が相手国の基準 (表示も) のせいで、期待した利益を得られないと思えば相手国政府を提訴できる。ISD審判の基準は企業の自由な活動を保障するTPPルールに違反しているかどうかだけ。負ければ法外な賠償金支払いと規制撤廃をさせられる。政府はすでに米国のクレームが懸念される規制は避けるようになっていく。今後、米国で開発済みのGMの米・小麦、サケなどが輸出されてくるだろう。また特区で解禁した企業の農地所有は、いざれ外資が入り日本の農地でGM栽培を始めるだろう。特許のかかったGM作物が近隣農家の作物と交雑すれば農家は特許侵害で多額の賠償金を取り立てられる。牛肉・豚肉―輸入増加となる米国やオ

ーストラリアの牛肉は多くの国が使用と輸入を禁止している「合成成長ホルモン剤」が使用されている。日本は使用禁止だが輸入は検査なしで最大のホルモ汚染牛肉の輸入国なのだ。食肉中のホルモ調査では、米国産牛の脂身で日本産の140倍、赤身で600倍の残留だった。米国における乳がんや前立腺がんの多発は肉や乳製品に残留するホルモ剤が疑われる。輸入牛肉の増加はガンの増加を招くと懸念される。

「ラクトパミン」は牛や豚の赤身増量用の飼料添加物だ。TPP参加国の米国・カナダ・メキシコ・オーストラリアで広く使用。EUは世界160カ国で使用禁止、輸入規制している。日本も禁止だ。しかし輸入肉については検査を省略している。ベーコン、ハム・ソーセージの原料はほとんどが輸入豚肉だ。TPPで安く食品が出回るだろうが、安さのつけは大きいことを知ってほしい。

エメラルドグリーンのカメムシ発見

代表 米山正

カメムシの臭気は強烈過ぎて、カメムシを好きです、と云う人は私には知らない。でも、このカメムシなら可愛いと思う人もいるかも。どうですこのオシヤレな装い、ヒゲや手足はピンクに染め、頭と体はグリーンにまとめた、周りに金色のフリルを付けて中々のファッションである。

昨年の秋、滋賀県のアゲハチョウの収集家の方からアゲハチョウと人面カメムシの標本を頂いた。友人知人お客さん、来る人みんなに標本を見せると、アゲハチョウの美しさに老若男女は、うわーキレイと歓声を上げた。人面カメムシへの反応は人面の形が面白いと興味を示し標本からは臭気を発しないので手に取るのを嫌がる人はいなかった。

好き嫌いは思い込みで決まる事も多く、食べる前から嫌いになることも良くある。私も人面カメムシの絵柄に興味を持つようになったからは、身近にいるカメムシに注目する時間が多くなり、注意して観ると背中中の絵柄の違う種類が意外に多い事に気付いた。これまでは悪臭を持つ虫として敬遠していたが、こちらから危害を加えなければ、あの臭は発射しない。

今朝は、このエメラルドグリーンのカメムシに出会い、一瞬、キレイーと思いに可愛い、と思った。苦手なカメムシだったが、色や絵柄が変わっただけで、これまで抱いていた先入観がどこかへ消えてしまった。明日は、白いカラスが飛んで来たからキレイな鳥だなんて感心するかもしれない。

数日前、白い小さなセンブリの花が静かな前に咲いた。たおやかな草なので風に吹かれると倒れそうに揺れる、支えてやらねばと思わせるこの草が胃調を整える強い薬効を持つと、誰が発見したのだろう。農場に出かけると小さな発見が毎日のようにあり、それだけでも癒されながら野菜づくりができる。

明日は友人たちが集い、傾いた古家を油圧ジャッキで持ち上げる予定だが果たして、どこまで水平になってくれるか。



<編集後記>

多くの国民が反対しているTPPが大筋合意をし、発効に向けて動き出しています。貿易の自由化といいながら、実は不平等貿易のような内容で私たちの食の安全は根底から脅かされます。そしてISD条項により、さまざまな不利益が生じるとされるTPP。平和な暮らしを脅かすTPPと安保法制、今からでも反対を言い続けなければならないと思っています。(ひ)

<イベントのご案内>

しめくくりのおしゃべり会・東京 国分寺
 「にんじんさんで会いましょう」

- 日時:12月04日(金) 18-20時
- 場所:居酒屋にんじん(中央線 国分寺駅北口)
- 参加費:3,000円



午後三時、天童駅に集合し、車で十分の阿部善明さんの畑でりんご狩りを楽しみました。その後は温泉へ…。



朝七時には皆さん畑で収穫を楽しみました。といっても十一月、あるのは聖護院大根とニラ。仙台の紺野さん、柿も収穫できました。



紅葉狩りのハイライトは雪を頂いた三山を望む弓張平高原。ブナ林でブナの実拾いも楽しみました。月山、姥ヶ岳、湯殿山を背に。

稲作だより

新米の精米をはじめました。少し遅れましたがお楽しみにお待ちください。

前号では、玄米を調整する際にふるいがあり、その網目のサイズをアップすることをお伝えしました。これは、他からの情報がない中での試みの試み。当初は網下の米が増える（手取りが減る）心配があったものの、「やっぱりいい米だ」「これなら喜んでもらえる、自信を持ってお届けできる」「いいでしょ、成功でしょ」と、生産者より元気な声が届いた。（一部生産者で網のサイズが0.05mm不足したものがあったが結果は同等だった。）

網目を大きくすると粒が大きいものばかりになるとも考えていたものの、これはちよつと違う。網目は長さではなく、米の「厚み」で選別される仕組み。だから実入りがよい米だけが残る。入荷した米を手にとってみるとみな「粒ぞろい」。手ごたえを感じた瞬間です。

是非感じていただきたいことは、洗米しているときの手の当たり方の心地よさ、ふつくら炊きあがるので椀に盛ったときの姿の美しさ、口当たり、噛みしめたときの弾力感、最後に味。適正な水分調整をしていますので、新米とはいえ、水は減らさずに目盛り通りで炊き上げてみてください。

古家の改造 男4人で大修理始まる 山形山10/20

フォトニュース再掲



声をかけ合い慎重に。マスクも役に立たない臭気。28日は4本の柱です。



集ってもう三十年近く。いまでも通ってきてくれる心強い仲間たちです。



なぜか郷愁をさそう古い民家。以前は子どもたちがトトロの家とも…。

青森の弘前城の曳屋（ひきや）に大感動して、よし自分たちも思い立ったのが傾いた古家、これを男4人で持ち上げてみようと思われ改造工事が始まりました。

山形山の入口に建つこの家は昭和30年代の開拓者の家でした。元の持ち主もとうに亡くなり家ごと譲り受けたのです。開拓時代の面影を残す住宅で壊すには忍びなく、倉庫として使っています。屋根の雪下ろしも冬季3回ほど汗を流し守ってきました。が、いよいよ傾きどうしようか思案していました。

当時の開拓民家は基礎工事もずさんで、土台の下に砂利を敷きおおきな石を置いた簡便なも

の。粘土質の土地は水はけも悪く長い間に土台を侵食して傾き始めたのです。

傾斜は約2度、油圧ジャッキで持ち上げようという計画です。

「今年は構造物を何も作らなかった」と心残りの米山にとっても新たな挑戦です。弘前城の曳き屋の感動をわが手に？の期待もチャレンジの原動力。10月20日、じめじめとカビの匂いも立ち込める中、10トンジャッキで2本の柱を持ちあげました。

10月28日、第2回の持ち上げ実施です。

興味のある方、援工事がいかがでしょうか。枯葉舞い散る晩秋の山形山へどうぞ。

「コーヒーブレイク



▼熊本の中本さんから初もぎのみかんが届きました。小さくても皮は薄く甘いみかいはいえないけれど皮は薄く甘いみかんでした。お礼を言う間もなく妻の智子さんから悲痛な声で電話が入りました。「主人が調子が悪くて、私も入院をくり返して、もうみかんちぎりはようせんとです。今年のみかんは全くの無農薬で丸々とよく育つとって、「中本さんがちぎらんなら私たちにちぎらせて」と近所の人がいいよるんです。けど私らもう二十年以上山山さんのところでみかんを買ってらってほんとにありがたかったです。他の人にやりたくなかつたです。会社のスタッフさん連れてみかんちぎりに来てください。」と切々と訴えられました。二人とも八十を超えました。声は元気そうですが窮状が伝わってきます。

▼廻りの畑はどこの猪の害で電気柵を何重にもしているけど穴を掘って作物を荒らしていく。でも中本さんのところでは電気柵はいらぬ。もう長いこと木酢液主体の農業をしてきたので、土にしみ込んだ木酢の匂いで猪が寄り付かないそうです。「十二月まで置いときますけん」と云われたみかんちぎりの旅、思案しています。

全有連の図書室 今月の新刊

全有連で定期購読している情報誌や冊子。どれも知りたい情報が満載です。取り扱いません。



食品と暮らしの安全 No.319
コンビニ、スーパー、持ち帰り弁当、定食屋の雑穀ご飯・玄米のミネラルを実測してみました。
□発行：食品と暮らしの安全基金



CR消費者レポート 1578号
・特集「わからない、選べない食品表示 ～消費者の権利を取りもどそう～」
□発行：日本消費者連盟



土と健康 No.460 8・9月号
カメムシ斑点米と農薬、ミツバチと子どもの健康（安田節子・御園孝・田坂興亜）
□発行：日本有機農業研究会

見本誌を貸し出します。返却はヤマトのメール便にて、貸し出し期間14日間です。